旅行業・運輸

「韓国絶品グルメ30選」商品コンテスト

最優秀賞は読売旅行に
韓国観光公社とJATA企画

日本旅行業協会（JATA）は12月17日、韓国観光公社と共同で実施した2024年4月1日から11月30日出発までの「韓国絶品グルメ30選商品コンテスト」について、受賞商品を決定し、同日、表彰式を行った。最優秀の「韓国観光公社賞」には読売旅行の商品が選出され、追加で設定された「敢闘賞」を含め今回は合計5社が受賞した＝**写真**。

「韓国絶品グルメ30選」は、その地方でしか味わえない絶品料理を広く紹介し、韓国の地方都市の魅力発信、ソウルへの一極集中の緩和、高付加価値な観光素材の提供、団体需要の促進などを目的に19年に制定された。

同コンテストは、コロナ禍の影響で「韓国絶品グルメ30選」の商品化が停滞していたことを受け、再度各社に使用してもらい韓国の「食」をアピールする目的で前年に引き続き実施。アウトバウンド促進協議会（JOTC）東アジア部会（会長＝平井登・ジャルパック社長）における部会活動の一環で、韓国観光公社と共同で行われている。

今回のコンテストは、「韓国絶品グルメ30選」のうち最低1カ所を取り入れ、さらに伝統市場の観光など地方活性化のための素材を組み込むことが条件。10社15部署から50商品の応募があった。

最優秀となる韓国観光公社賞には、読売旅行の「10の世界遺産と10都市巡り＆5つの韓国絶品グルメを食す！」が選出。短い滞在期間で各地を巡る内容の濃さや五つのグルメを組み込んだこと、販売促進活動にも注力した点が評価された。このほか、「日本旅行業協会賞」1点、「特別賞」2点に加え、今回は追加で「敢闘賞」も1点用意された。

韓国観光公社・日本地域センター長兼東京支社長の金観美（キム・グァンミ）氏は、「地域グルメを体験させたり、世界文化遺産巡りを組み込んだりと、内容を魅力的に見せることで集客がうまくいった。素晴らしい商品が多かったのは一番よいこと。旅行会社ならではの魅力的な価値のある韓国の商品がたくさん出てくるように、私たちも支援を続けていきたい」と受賞者をねぎらった。

表彰式の後は同社次長の梁蘭榮（ヤン・ナニョン）氏が登壇し、日韓国交正常化60周年となる25年に向けて、商品造成・団体送客の計画について概要を説明した。

韓国を訪れる日本人が20～30代の女性に偏っている点や、両国の近さゆえに短期滞在が多くなっている現状を打開すべく、2025年は比較的長期の滞在が可能な中高年層、ファミリー層、男性などをメインターゲットとした地方観光商品の造成を促す。

次回のコンテストでは、絶品グルメ30選と「絶景」を組み合わせた地方観光の商品造成を条件に設定し、「絶景」の詳しい対象については、祭りなどの伝統行事も含め検証を行う。国交正常化60周年の記念商品の造成・送客も目指し、韓国観光に関心のある一般消費者に向けて地方で伝統文化を体験できるコンテンツを今後発信していくとした。

今回のコンテストでの受賞者は次の通り。

【韓国観光公社賞】（1点）
読売旅行「10の世界遺産と10都市巡り＆5つの韓国絶品グルメを食す！」

【日本旅行業協会賞】（1点）
エイチ・アイ・エス「韓国美食と世界遺産を巡る韓国4日間」

【特別賞】（2点）
JTB「美食と世界遺産を巡る韓国縦断4日間」

【敢闘賞】（1点）
TABi，Z（タビーズ）「韓国旅行コーディネーター・ハテギュンと行く 韓国隅々旅～2024忠清道～」

阪急交通社「港町釜山・慶州に行ったら絶対食べたいカニ・ふぐ・サムギョプサルから韓国屋台まで！ 担当者イチ推しの10の名物料理を食す春夏のマシッソヨ釜山慶州4日間」

留学生の危機に対応
日本旅行グループ 大学向けに新サービス

日本旅行の海外グループ会社TASKAL RESOURCES SDN. BHD.（本社＝マレーシア・クアラルンプール）は、日本国内の大学を対象とした危機管理サービス「大学110番」をこのほど始めた。海外での重大事案発生時に迅速な事故対応を行うなど、日本から海外に派遣された留学生らを支援する。

①平時において海外での重大事案発生時を想定して、各大学が持つマニュアルの実効性を検証するための簡易な訓練を実施②大学担当者向けに、案件や回数を問わず無料で24時間365日相談窓口を提供③事故対策本部設置までの間、「事故対策準備室」を24時間365日体制で迅速に設置―の各基本サービスを設定。

同社の現地駆け付けパートナーが現場に急行し、現地に滞在する学生の支援を行うなど、要望に応じたサービスも行う。

コロナ禍が一段落して海外への派遣学生数が回復傾向にあるものの、不安定な国際情勢が続き、事件、事故など不測の事態に巻き込まれるリスクが増している。

ただ、大学で危機管理対応の実効性に疑問が残るケースがあるほか、危機管理会社と契約しているものの気軽に相談しづらく費用対効果を感じられないなどの声が上がっているという。同社はこれらの声に応えた。

料金は1校当たり年間24万円。

JATAとPATAが共同講演会
国際観光機関の取り組み紹介

日本旅行業協会（JATA）の訪日旅行推進委員会は12月19日、太平洋アジア観光協会（PATA）と共同で、国際観光機関の取り組みを紹介する講演会を開催した。PATAの会員企業の特徴やこれまでの活動内容などが紹介されたほか、コロナ禍で停止していた各種活動の活性化に向けて2025年に実施する主な取り組みなどを説明した。UNツーリズム駐日事務所も参加し、国際観光の潮流や今後注力していく取り組みについて紹介した。

PATA（Pacific Asia Travel Association）は、太平洋アジア地域への観光客誘致や域内交流の活性化を目的とした国際広域観光団体。1952年に米国のハワイで設立され、現在はサンフランシスコに事業本部を、タイのバンコクに運営本部を置いている。世界中に43の支部を擁しており、62年に設立された日本支部では、JATA会員企業をはじめ、旅行産業に携わる政府機関、航空・空港会社などが参画。横断的に連携し、インバウンド・アウトバウンドに向けたさまざまな事業を展開している。

PATAについて説明する熊田氏（左）

講演会の冒頭、PATA日本支部会の石田恒夫会長が登壇。「観光業界を横断して皆さまとともに原点回帰で一緒に学習させていただき、来年に向けてどのような行動をしていったらよいか考えていきたい」とあいさつした。

講演会の前半は、PATA本部役員の熊田順一氏が「PATA本部の取り組みと日本支部との関わりについて」と題する講演を行った。PATAの会員企業の特徴や支部間での情報ネットワークなどを紹介。25年に開催予定の主なイベントには、毎年1回実施されるPATAの総会「PATA ANNUAL SUMMIT」が4月21日から23日にかけてトルコ・イスタンブールで開催されるほか、8月26日から28日にかけて開催予定の「PATA TRAVEL MART」を紹介した。

後半は、UNツーリズム駐日事務所の副代表・大宅千明氏がオンライン参加でUNツーリズムの概要や活動方針、国際観光の潮流について説明した。

大宅氏は、UNツーリズムが年4回更新で公開している世界各国の観光客到達数や国際観光収入・支出額などの統計データ「ツーリズム・バロメーター」を紹介したほか、コロナ前の19年と比較した観光収入額の成長率ランキングで日本は世界4位となっていることについて言及。世界的にコロナ前の水準まで国際観光が回復しているとした上で、「コロナ前の状況に戻ったから良いということではなく、より社会的・環境的な責任を意識する必要がある」と強調した。観光でSDGsの達成を目指す重要性について触れ、持続可能な観光地域づくりに取り組む優良地域を認定する「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」や、昨年11月に仙台で開催された「観光レジリエンスサミット」を紹介した。

D&Iアワードで
4年連続最高評価
JAL

日本航空（JAL）はこのほど、JobRainbow社が主催するダイバーシティ&インクルージョン（D&I）に取り組む企業を認定・表彰する日本最大のアワード「D&I AWARD2024」において、4年連続となる最高評価の「ベストワークプレイス」に認定されたと発表した。従業員数3001人以上の企業を対象とした「D&I AWARD賞」も受賞し、ダブル受賞を達成した。

同アワードの認定基準は、「ジェンダーギャップ」「LGBTQ＋」「障がい」「多文化共生」「育児・介護」の5項目から算出したダイバーシティスコアをもとに、四つのランクごとに認定。認定企業の中でもスコアが高く、他の企業のロールモデルとなるような特筆すべき取り組みを行う企業には、企業規模や特性に応じた5部門で「D&I AWARD大賞」「D&I AWARD賞」が贈られる。

同社はDEI（Diversity＝多様性、Equity＝公平性、Inclusion＝包括性）を経営戦略の重要な柱と位置付け、女性以外の多様性受容含めて継続的に取り組んでいることが評価された。

具体的には、職種におけるジェンダーギャップの改善や、旅客機内および空港の英語アナウンスをジェンダーニュートラルな表現へ変更、障がいのある社員の就労領域を段階的に拡大などが評価につながった。

北海道方面が好調
航空2社の年末年始予約

全日本空輸（ANA）と日本航空（JAL）は12月23日、年末年始期間（12月27日～1月5日）の予約状況を発表した。両社とも国内・国際線共に好調で、JALの予約率は2020年以降、両線で過去最多を記録。方面別では、北海道、ハワイ方面の需要が顕著にみられた。

国内線の予約数は、ANAが前年度比17・2％増の146万6091人で、予約率は同9・4ポイント増の82・6％。方面別では、北海道方面が同22％増と高水準を記録した。

JALは同8・8％増の108万239人で、予約率は同7・4ポイント増の81・3％。方面別では、北海道をはじめ、関西、中国・四国、沖縄方面が好調に推移している。

国際線の予約数は、ANAが同16・2％増の24万1323人で、予約率は同6・0ポイント増の83・4％。方面別では、ハワイや24年12月に新規就航した欧州路線（ミラノ含む）が同52・0％増と大きく伸びた。

JALは同24・2％増の22万6089人で、予約率は同9・5ポイント増の87・8％。方面別では、特に東アジア路線が好調で、ハワイ路線では12月27日の日本着便を除き、日本発着便がほぼ満席となっている。

北海道十勝舞台に命と食学ぶツアー
東武トップ

東武トップツアーズは、食の絆を育む会（北海道十勝郡浦幌町）と十勝うらほろ樂舎（同）と連携し、中・高校生を対象とした「『いのち』に触れて『生きる』を考える北海道・十勝スタディツアー」を今夏に開催する。

現代社会で希薄になりつつある農村漁村とのつながりや、第1次産業への関心低下が進む中、日本の食糧基地である北海道十勝地域を舞台に、農業や食に関わる現場での体験を通じて、命や食の大切さを学ぶことを目的としている。

ツアー日程は7月30日から8月2日までの3泊4日。酪農・畑作農家での仕事体験、よつ葉乳業の工場見学、「生きる」をテーマにしたワークショップ、帯広畜産大学の学生との交流などのプログラムを予定しており、初日は、農家でのホームステイも行う。

役員の担当変更
JTB、2月1日付

JTBは、2月1日付人事異動に伴う役員の担当変更などを発表した。株主総会、取締役会などを経て正式決定する。

取締役兼常務執行役員財務担当（CFO）兼グローバル統括本部長（取締役兼常務執行役員財務担当（CFO）兼グローバル統括本部長訪日インバウンドビジネス担当）武田淳

取締役兼常務執行役員経営戦略担当 DX担当（CSO、CDXO）（取締役兼常務執行役員経営戦略担当（CSO））藤井大輔

執行役員ビジネスソリューション事業本部事業推進部長（ビジネスソリューション事業本部事業推進チームマネージャー）渡辺紳

執行役員内部統制担当法務担当（CCO）（執行役員ガバナンス担当内部統制担当（CGO））松岡徹

常務執行役員ツーリズム事業本部副本部長全社広域営業推進担当兼東日本エリア広域代表訪日インバウンドビジネス担当（常務執行役員ツーリズム事業本部副本部長全社広域営業推進担当兼東日本エリア広域代表スポーツビジネス戦略担当兼横須賀支店長）山田仁二

執行役員ツーリズム事業本部顧客戦略担当（執行役員ツーリズム事業本部事業改革推進部長CX戦略担当）小林美江子

執行役員ツーリズム事業本部事業推進部長スポーツビジネス戦略担当（執行役員ツーリズム事業本部事業推進部長）福井貴裕

執行役員ツーリズム事業本部海外旅行ビジネスモデル改革担当（執行役員ツーリズム事業本部海外旅行バリューチェーン改革担当）深澤俊一

執行役員ツーリズム事業本部Web戦略担当国内旅行ビジネスモデル改革担当（執行役員ツーリズム事業本部Web販売事業部長Web戦略担当）池口篤志

1月31日付退任（執行役員DX担当（CDXO））各務茂雄

鳥海高太朗の交通トレンド分析 ―270―

3月のダイヤ改正で「のぞみ」自由席2両に　どう変化するのか

東海道・山陽新幹線「のぞみ」の自由席が2025年3月15日のダイヤ改正から現在の3両から2両となることが発表された。

東京駅発の下りの「のぞみ」は始発駅で本数が多いことから私自身も自由席を利用する機会が多いが、今後は指定席利用が増える可能性もありそうだ。メリットとデメリットについて考えてみたいと思う。

まずメリットとしては、1両分増えることで指定席が予約しやすくなる。3号車の定員数は85席でこれが指定席になることで慢性的に混んでいる指定席が少しは取りやすくなる。特に途中駅の品川駅・新横浜駅から乗りたい時などはプラスになる。

また、JR東海にとっても指定席が増えることで収入増になるだろう。以前、JR東海のインターネット予約「スマートEX」「エクスプレス予約」は指定席と自由席が同じ料金だった時代が長かったが、今は指定席と自由席が異なる価格となり、ネット予約でも収益増が望める。

すでに年末年始やゴールデンウイーク、お盆などの繁忙期は「のぞみ」が全席指定席となり、2年目を迎えて完全に定着しているようだ。

デメリットとしては、自由席の争奪戦が激しくなることが予想される。

冒頭でも触れたが、私自身は東京駅発で「のぞみ」を利用する機会が多いが、1時間あたり10本以上の「のぞみ」が発車することもあり、私は「スマートEX」で自由席を購入し、東京駅に到着した段階で先発列車に乗車するということをしているが、2両となることで現在の250席が165席と減ることから先発列車で座れない可能性も考えられる。

ただ、ネット予約で指定席自体も直前でもスマートフォンで簡単に予約できるので、ギリギリでも特段大きな問題にはならなそうだ。影響が出そうなのが新幹線特定特急券として割安に自由席が利用できる短距離利用。

「のぞみ」において、東京・品川―新横浜、京都―新大阪、新大阪―新神戸、小倉―博多を利用する際に乗車時間が短いので立席でもそれほどでもないが、これまでより座れないケースが出てくるだろう。

本数は少ないが、「ひかり」「こだま」を利用すればいいが、短距離区間ほど先発列車に乗りたいところでもある。

個人的な希望としては、今も平日朝の時間帯に実施している、新横浜→東京における空いている指定席に自由席特急券で座れるという特別運用を増やしてほしいところだ。

たとえば、新大阪行きの「のぞみ」の京都→新大阪などでは可能だろう。3月のダイヤ改正以降、自由席の混み方がどうなるのか注目したいと思う。

（航空・旅行アナリスト、帝京大学非常勤講師）

テツ旅、バス旅
鎌倉 淳（100）

JR北海道が新たな観光列車「赤い星」「青い星」の概要を発表しました。

「赤い星」は、主に釧網線の釧路―知床斜里間で運行し、道内各地を回るクルーズトレインとしても活用されます。「青い星」は主に富良野線で運行し、流氷期間は釧網線の網走―知床斜里間でも運行します。

「赤い星」がラグジュアリークラス（豪華）、「青い星」がプレミアムクラス（上質）という位置づけです。運行開始は2026年度。JR北海道の将来を担う、看板車両としての期待がかかります。

入れ替わる形で、これまで釧網線や富良野線を走ってきた「ノロッコ号」が、25年度をもって運行を終了します。普通・快速で運行されてきた、いわばエコノミークラスの観光列車ですが、それが姿を消して、豪華で上質な観光列車が登場してくるわけです。

こうした観光列車のハイグレード化は、全国的な傾向です。

たとえば、24年に登場したJR九州の「かんぱち・いちろく」や、JR西日本の「はなあかり」も、全車グリーン車仕様です。定期列車では、「サフィール踊り子」もグリーン車しか連結していません。

豪華列車が増えているのは、鉄道会社が観光列車での増収に力を入れていることに加えて、インバウンドを念頭に、価格を引き上げても魅力的な車両にしたほうが、集客しやすいという側面があるようです。

観光列車の草分け的存在といえば五能線の快速「リゾートしらかみ」で、いまでも乗車券と座席指定料金だけで利用できます。しかし、こうしたエコノミーな観光列車は、少数派になりつつあります。

少しずつ増えているのが、定期運用にも用いられる「観光車両」です。たとえば、北海道では、キハ40形という古い車両を改装して「北海道の恵み」という観光車両に仕立てています。座席配置はほとんど変更せず、ふだんは定期運行の普通列車に充当していますが、観光列車としても運行できる多目的車両です。

観光車両が走るのは主にローカル線です。人口減少により、沿線の通学客だけで席が埋まらなくなっているので、普通列車を観光列車兼用にして、少しでも観光客に乗ってもらおうとしているようです。

インバウンドの増加と人口の減少は、観光列車のあり方にも変化を及ぼしている、ということです。

本年もよろしくお願いいたします。

（旅行総合研究所タビリス代表）＝月2回掲載

増える豪華観光列車

JR四国ホテルズ
JR SHIKOKU HOTELS
〒760-0011 香川県高松市浜ノ町1番1号　☎ 087-811-1111
JRホテルクレメント高松　JRホテルクレメント徳島
JRホテルクレメント宇和島　JRクレメントイン高松
JRクレメントイン高知　JRクレメントイン今治
JRクレメントイン姫路　ホテル道後やや

JR東日本ホテルズ
JR東日本ホテルズは、100年以上の歴史を誇り国内外のお客さまに愛されている「東京ステーションホテル」、"TOKYO WAVES"をコンセプトに絶えず変化する東京の"今"に根ざしたサービスやコンテンツを提供する「メズム東京、オートグラフ コレクション」、華やぎとやすらぎが息づく空間の中で、満ち足りたひとときをお届けする「メトロポリタンホテルズ」、上質が息づくをコンセプトに展開する宿泊特化型ホテル「JR東日本ホテルメッツ」など、東日本エリア中心に60以上のホテルを展開しています。
JR-EAST HOTELS　https://www.jre-hotels.jp